

2025年3月期 決算 説明資料

2025年5月13日
日本貨物鉄道株式会社

1. 2025年3月期 決算

2. 2026年3月期 業績見通し

3. 主な取組み

1. 2025年3月期 決算

連結経営成績

(単位：億円、単位未満切捨て)

	2024年3月期 実績	2025年3月期 実績	対前年同期	
			増減	%
営業収益	1,885	2,007	+122	+6.5
営業費用	1,933	1,980	+47	+2.4
営業利益	-47	27	+74	—
経常利益	-42	14	+57	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	-35	67	+102	—

単体経営成績

営業収益	1,525	1,622	+97	+6.4
営業費用	1,593	1,616	+22	+1.4
営業利益	-67	6	+74	—
経常利益	-62	-8	+54	—
当期純利益	-47	53	+100	—

- 連結営業収益は、運輸収入では運賃改定効果や輸送量の増加により、前年度を上回り増収。
- 連結営業費用は、単体の電力単価高騰の影響で動力費の増加等があり、前年度を上回った。
- 連結営業利益は、連結営業収益の運輸収入が伸びたため営業利益を確保。また、連結経常利益は黒字転換。
- 当期純利益は、特別勘定の土地の売却が影響し大幅増となり黒字転換。

1. 2025年3月期 決算

セグメント別状況

(単位：億円、単位未満切捨て)

		2024年3月期 実績	2025年3月期 実績	対前年同期	
				増減	%
鉄道ロジスティクス事業	営業収益	1,696	1,804	+107	+6.4
	営業利益	-152	-85	+67	-
不動産事業	営業収益	203	218	+14	+7.3
	営業利益	99	108	+9	+9.8
その他	営業収益	46	46	+0	+1.6
	営業利益	2	1	-1	-44.2

(単体) 事業別状況

鉄 道 事 業	営業収益	1,361	1,444	+82	+6.1
	営業費用	1,528	1,545	+17	+1.1
	営業利益	-166	-100	+65	-
関 連 事 業	営業収益	164	178	+14	+8.6
	営業費用	65	70	+5	+7.8
	営業利益	98	107	+9	+9.1

- 鉄道ロジスティクス事業では、台風等の災害や当社の輪軸不正の影響が大きかったものの、2024年問題を背景とした鉄道シフトの進展により輸送実績は前年度を上回った。また、輸送実績の増加や運賃改定の効果で運賃収入が増加したため、動力費等の経費の増加分を吸収したことにより増収増益。
- 不動産事業は九州長浜地区の建物新規貸付や、土地建物の販売収入が大きく増加したため増収増益。

1. 2025年3月期 決算

連結財政状態

(単位：億円、単位未満切捨て)

	2024年3月期 実績	2025年3月期 実績	対前期末 増減	備考
資 産	4,376	4,568	+191	流動資産 806億円 (対前期末 +226億円) 固定資産 3,762億円 (対前期末 -34億円)
負 債	3,445	3,540	+95	
純 資 産	931	1,027	+96	
自己資本比率	20.0%	21.2%	—	

単体財政状態

資 産	3,987	4,173	+186	流動資産 597億円 (対前期末 +218億円) ・ 現金及び預金の増 +186億円 固定資産 3,576億円 (対前期末 -31億円) ・ 減価償却の進捗による減
負 債	3,368	3,502	+134	当期末長期債務2,247億円 (対前期末 +199億円) ・ 社債 440億円 (対前期末 +140億円) ・ 有利子借入 858億円 (対前期末 -47億円) ・ 無利子借入 949億円 (対前期末 +106億円)
純 資 産	618	670	+52	

- 2024年6月にグリーンボンドを含む社債を発行し140億円調達。
- 震災・大雨・噴火に対応したコミットメントライン（貸付限度額150億円）を継続。当期まで利用なし。

1. 2025年3月期 決算

連結キャッシュ・フローの状況

(単位：億円、単位未満切捨て)

	2024年3月期 実績	2025年3月期 実績	対前年同期	
			増減	%
営業活動によるキャッシュ・フロー	168	187	+18	+11.2
投資活動によるキャッシュ・フロー	-258	-173	+84	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	60	183	+123	+206.0
現金及び現金同等物の増減額	-30	197	+227	—
現金及び現金同等物の期末残高	211	408	+197	+93.4

単体キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フロー	143	167	+24	+17.1
投資活動によるキャッシュ・フロー	-196	-138	+58	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	9	157	+148	—
現金及び現金同等物の増減額	-44	186	+231	—
現金及び現金同等物の期末残高	97	284	+186	+191.8

- 連結の営業活動によるキャッシュ・フローは、運輸収入の増収等により当期純利益が増加し流入額が増加。
- 投資活動によるキャッシュ・フローは、設備投資は増加したものの固定資産売却収入の増加等により流出額が減少により流出額が減少。
- 財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入の実行により流入額が増加。
- 現金及び現金同等物は期首から197億円増加し、期末残高は408億円。

1. 2025年3月期 決算

品目別輸送実績表

(単位：千トン、単位未満切捨て)

	2024年3月期 実績	2025年3月期 実績	対前年同期	
			増減	%
輸 送 量	26,524	27,148	+624	+2.4
コンテナ	18,107	18,617	+509	+2.8
農産品・青果物	1,546	1,545	-0	-0.1
化学工業品	1,538	1,566	+28	+1.8
化学薬品	1,092	1,091	-0	-0.1
食料工業品	2,961	3,095	+133	+4.5
紙・パルプ	2,036	2,127	+90	+4.5
他工業品	1,225	1,185	-40	-3.3
積合せ貨物	3,173	3,179	+5	+0.2
自動車部品	699	733	+34	+5.0
家電・情報機器	354	376	+21	+6.1
エコ関連物資	373	534	+160	+43.0
その他	3,105	3,182	+76	+2.5
車 扱	8,416	8,530	+114	+1.4
石油	5,808	5,942	+133	+2.3
セメント・石灰石	1,380	1,404	+23	+1.7
車両	808	811	+2	+0.3
その他	417	372	-44	-10.7

- コンテナは、エコ関連物資が、中央新幹線建設工事に伴う発生土の運搬等により前年を上回った。食料工業品は、記録的な猛暑の影響で清涼飲料水を中心に需要が旺盛だったことに加えて鉄道シフトの取組みが進んだことにより好調な荷動きとなった。紙・パルプは、ペーパーレス化の進展に伴う紙の需要減少が続く中でも、一部顧客の鉄道シフトにより堅調に推移した。この結果、コンテナ全体では前年を上回った。車扱は、石油が、ガソリン及び軽油を中心に年間を通じて概ね堅調な荷動きとなったほか、セメントは、顧客工場における定期修繕計画の変更などにより増送となり、車扱全体で前年を上回った。

1. 2025年3月期 決算

2. 2026年3月期 業績見通し

3. 主な取組み

2. 2026年3月期 業績見通し

連 結

(単位：億円、単位未満切捨て)

	2025年3月期 実績	2026年3月期 見通し	対前年同期	
			増減	%
営 業 収 益	2,007	2,143	+135	+6.7
営 業 利 益	27	88	+60	+225.1
経 常 利 益	14	74	+59	+408.2
親会社株主に帰属する 当期純利益	67	43	-24	-36.4

単 体

営 業 収 益	1,622	1,753	+130	+8.0
営 業 利 益	6	70	+63	+947.9
経 常 利 益	-8	55	+63	—
当期純利益	53	32	-21	-39.6

- 輪軸組立作業における不正行為等の不適切事案を二度と発生させないために企業運営の基盤であるガバナンス体制の強化を通じて、鉄道物流の信頼回復に努める。
- 既存のアセットを最大限活用して潜在的な輸送ニーズの取り込みを図り、対前年増収を見込む。
- JR貨物ロジ・ソリューションズを基軸として、倉庫機能を結節点に貨物鉄道輸送を中心とした輸送モードを組み合わせながら、お客様のニーズに合わせた総合物流サービスを提案・提供する総合物流体制を構築することや、「回転型不動産ビジネス」に参入し、不動産の売却で得られた資金を拡大再投資して不動産事業の拡大を図ることで、連結及び単体の各利益の拡大を目指す。

1. 2025年3月期 決算

2. 2026年3月期 業績見通し

3. 主な取組み

【補足】「今後の鉄道物流のあり方に関する検討会」(国土交通省主催検討会、2022年)を受けて
設定したKGI/KPI(KGI/KPI)に関する進捗状況等は別資料にてご説明しています。

3-1. 2024年度 主な取組みの進捗状況

【注】「達成率」は最終目標(一部は年度目標)に対する2024年度までの実施状況を示す

◎ 輪軸組立作業における不正行為の再発防止 (1月31日及び3月28日に国土交通省へ報告)

- ハード面：検査記録書き換え防止のためのシステム改修実施(各車両所) 等
- ソフト面：輪軸組立作業に関する規程類の整備及び教育体制の改善と
新設した「業務監査室」による監査の実施 等

◎ 安全基盤の強化・安定輸送の追求

(1) 「安全の価値観」に基づく行動の定着

- 安全教育施設「刻心塾」(2024年4月開設)活用による教育実施
- 「重大事故リスト」の活用(2024年4月より)

【手ブレーキ緩解失念事故対策】

－手ブレーキ検知システムの使用開始

【偏積防止対策：山陽線列車脱線防止対策】

－利用運送事業者等との勉強会の継続実施

－輪重測定装置及びトラックスケール増備

KGI/KPI

- 安全性向上のためのハード対策

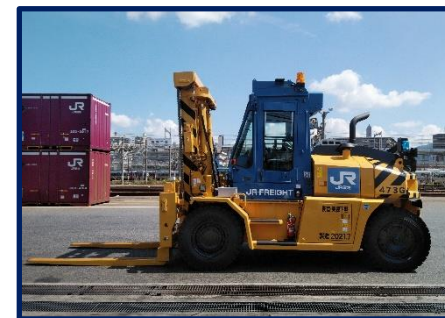
・機関車の安全性向上

－DF200形式200番代のデジタル列車無線機置換え
(2024年度4両実施[累計8両/8両]・達成率100%)

・フォークリフトの安全機能(全方位モニター等)の追加
(2024年度19台実施[累計339台/606台]・達成率55%)



◆トラックスケール (百済貨物ターミナル駅)



◆安全機能搭載のフォークリフト

3-1. 2024年度 主な取組みの進捗状況

【注】「達成率」は最終目標(一部は年度目標)に対する2024年度までの実施状況を示す

◎ 安全基盤の強化・安定輸送の追求

(2) 災害等輸送障害時の対応力の強化

- 代行体制構築の迅速化に向けたフェーズフリーの取組み
【トラックの活用】
 - ・首都圏での列車とトラック併用に向けた体制づくり
- 【内航船の活用】
 - ・499船「扇望丸」(2024年8月就航)の利活用
- 山陽線不通時を想定したBCP対策の推進
 - ・新南陽駅整備の推進 KGI/KPI
 - ・官民一体のBCP対策検討会の展開(北九州市・岡山県) KGI/KPI
- う回列車運転に備えた対策の実施
 - ・EH500形式交直流電気機関車の改造両数拡大
(2024年度7両実施[年度目標10両(累計33両)]・達成率70%)



◆代行輸送を実施する「扇望丸」
(2024年10月 苫小牧港での積込みの様子)



◆官民一体のBCP対策検討会(岡山)

◎ 既存アセットを最大活用した輸送量の回復

(1) お客様ニーズの把握と営業提案領域拡大

- 改修したHPご利用事例紹介「お客様の声」の閲覧状況分析と商談化の取組み KGI/KPI

(2) 31ftコンテナの取扱量拡大 KGI/KPI

- 事業体(コンソーシアム)の構築とラウンドマッチングの推進
- 貨物駅(静岡貨物駅・西浜松駅)のコンテナホーム拡張実施

3-1. 2024年度 主な取組みの進捗状況

【注】「達成率」は最終目標(一部は年度目標)に対する2024年度までの実施状況を示す

◎ 既存アセットを最大活用した輸送量の回復

(3) 中距離帯におけるネットワークの整備

KGI/KPI

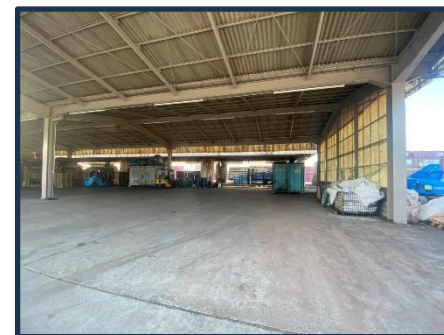
○拡充区間(関東⇔広島)等のトレース結果に基づく拡大検討

(4) 総合物流事業の推進

○グループ会社との協働による総合物流推進体制の整備

○積替ステーションやパレットデポ“駅パレ”の整備推進

KGI/KPI



◆積替ステーション
(西浜松駅、2025年4月開設)

◎ 不動産事業の更なる拡大と新規事業の展開

(1) テーマと持続性のある新規開発の推進

○レールゲートの展開(千葉・横浜羽沢・福岡)に向けた取組み推進

○「フレンチア練馬桜台」の竣工(2024年7月)と「フレンチア立川」の着工(2024年11月)

(2) 既存物件の再開発と価値持続追求の両睨み運営

○長浜地区商業施設(再開発)の竣工(2024年7月)

○第1号不動産私募ファンドの組成(2025年3月)

(3) 将来の収益化に向けた新規事業へのチャレンジ

○植物工場の稼働率向上に向けた体制整備の深度化

(4) 物件取得の拡大と収益拡大のスピードアップ

○グループ会社との協働による「フレンチア」等の運営に向けた検討の推進



◆フレンチア立川 完成イメージ

3-1. 2024年度 主な取組みの進捗状況

【注】「達成率」は最終目標(一部は年度目標)に対する2024年度までの実施状況を示す

◎ 経営基盤の強化

(1) スリムで機能的な組織体制の構築・ガバナンス強化

- 組織体制の見直し（貨物駅と営業所の一体化）実施

(2) 人的投資と働きがい創出

- 制度改正の実施(フレックスタイム制度,カムバック制度等の導入)

(3) 収支構造改革

- フォークリフトメンテナンス作業の一部内製化実施
- 基本運賃改定の実施(2024年4月)とフォローアップ



◆内製化したタイヤ組立作業の様子
(東新潟機関区)

◎ 貨物鉄道輸送の更なる役割発揮に向けた取組み

(1) 脱炭素社会の実現に向けた取組み

- 姫路地区・岡山地区等における水素輸送・利活用の検討推進

(2) 海外における貨物輸送事業への参画

- タイでの「鉄道プラットフォーム事業」検討推進

(3) DX・新技術の推進

- セミオート・ガイダンス機能搭載のフォークリフトの導入(2024年12月)
- コンテナハンドリングマネジメントシステムの開発推進
- トラック自動運転等の新物流システムとの連携推進



◆セミオート・ガイダンス機能搭載の
フォークリフト

3－2．2025年度 主な取組み

取組みの方向性

鉄道事業の基盤である安全と企業運営の基盤であるガバナンス体制の強化を通じて、企業風土を見つめ直し、鉄道物流への信頼回復に努めるとともに、グループ社員の力を結集して総合物流企業グループへの進化と不動産事業の展開を新たなステージへ進め、発現する社会課題の解決に取り組めます。

◎ 作業記録の書き換え等の不適切事案の再発防止

○「輸送の安全に関する事業改善命令」における「JR貨物の安全確保のために講ずべき措置」の実施

◎ 安全基盤の強化と安定輸送の追求

- (1) 安全最優先の職場風土の醸成(4つの行動)
- (2) 災害等輸送障害時の対応力の強化

◎ グループ一体での鉄道×物流の総合力による輸送量の拡大

- (1) グループ会社と協働する新たな総合物流体制の構築と稼動
- (2) 既存輸送力を徹底的に活用した潜在的な輸送ニーズの取り込み
- (3) 新時代の貨物鉄道輸送に相応しい制度見直し

◎ 不動産事業の拡大と新規事業の展開

- (1) 回転型不動産ビジネスへの参入
- (2) テーマと持続性のある新規開発の推進
- (3) 既存物件の有効活用

◎ 経営基盤の強化

- (1) コーポレート・ガバナンスの強化
- (2) 人的投資と働きがい創出
- (3) グループ戦略の強化

◎ 貨物鉄道輸送の更なる役割発揮に向けた取組み

- (1) 脱炭素社会の実現に向けた取組み
- (2) 実効性を伴った新技術導入や次世代エネルギーの利活用・輸送の取組み
- (3) 海外における貨物鉄道事業への参画

3-2. 2025年度 主な取組み

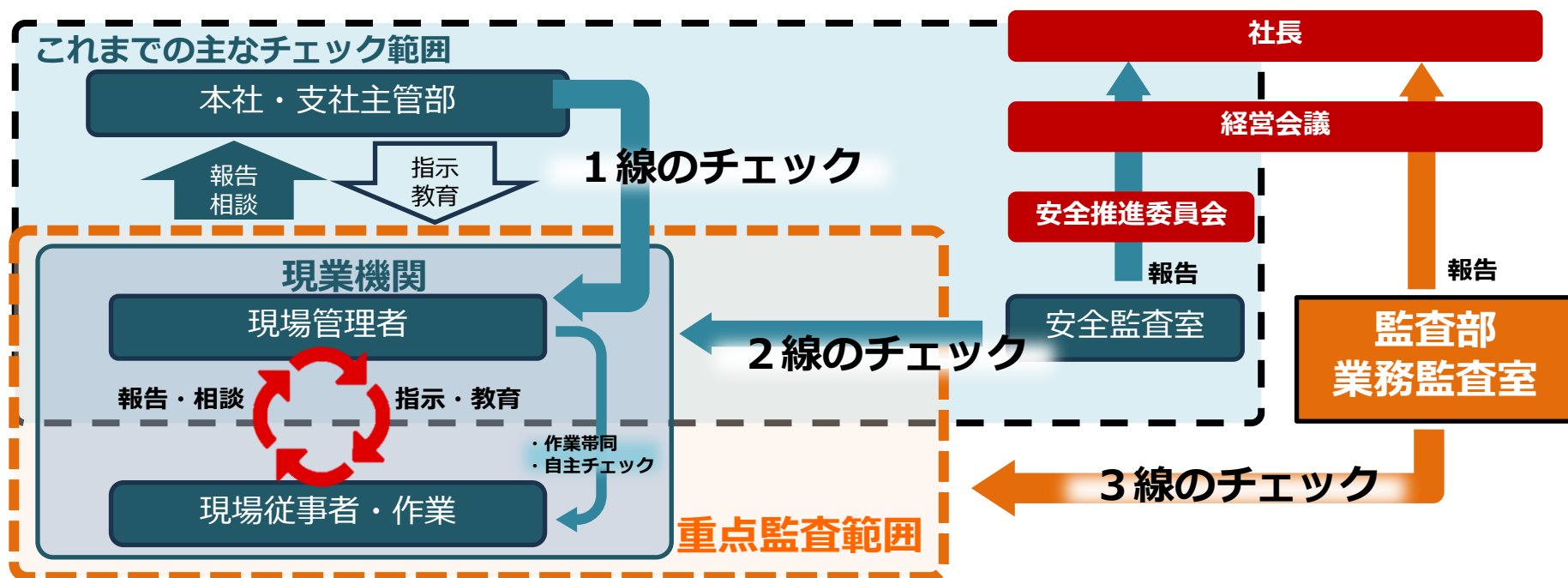
◎ 作業記録の書き換え等の不適切事案の再発防止

○ 「輸送の安全に関する事業改善命令」における

「JR貨物の安全の確保のために講ずべき措置」の実施

- ✓ 車両検修業務・保全業務・駅業務・運転業務の各種業務監査の実施
- ✓ 体系的・計画的な教育によるコンプライアンス意識の浸透
- ✓ 車両の走行の安全に関わる重要な装置・組立作業の検査標準の整備
- ✓ 車両の走行の安全に関わる重要な作業に使用する装置のシステム改修

【業務監査(3線のチェック)のイメージ】



3-2. 2025年度 主な取組み

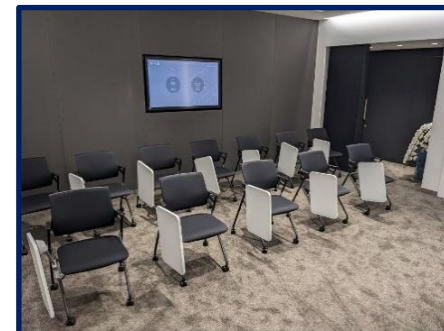
◎ 安全基盤の強化と安定輸送の追求

(1) 安全最優先の職場風土の醸成（4つの行動）

- (知る・学ぶ)安全教育施設「刻心塾」のサテライト化
- (褒める)「安全の価値観」に基づく優れた行動の表彰と共有
- (気付く)「重大事故リスト」やヒヤリ・ハットの活用
- (支える)安全性を向上するための主な対策

【偏積防止対策：山陽線列車脱線防止対策】

- －利用運送事業者との協力体制構築と積込事業者への啓発活動継続
- －輪重測定装置及びトラックスケール等の設置の完了 KGI/KPI



◆「刻心塾」

(2) 災害等輸送障害時の対応力の強化

- 代行体制構築の迅速化に向けたフェーズフリーの取組み

【トラックの活用】

- ・首都圏における列車輸送とトラック輸送の併用スキーム構築

【内航船の活用】

- ・「扇望丸」の利用時の体制整備迅速化
- ・既設内航船の通年利用拡大の検討

- 山陽線不通時を想定したBCP対策の推進

- ・代行拠点駅となる新南陽駅の整備推進 KGI/KPI
- ・官民一体のBCP対策検討会の展開(東北・北海道地区) KGI/KPI

- う回列車運転に備えた対策の実施

- ・EH500形式交直流電気機関車の改造両数拡大

- 見やすく伝わりやすい「輸送情報」の発信 KGI/KPI



◆新南陽駅のコンテナホーム拡張工事



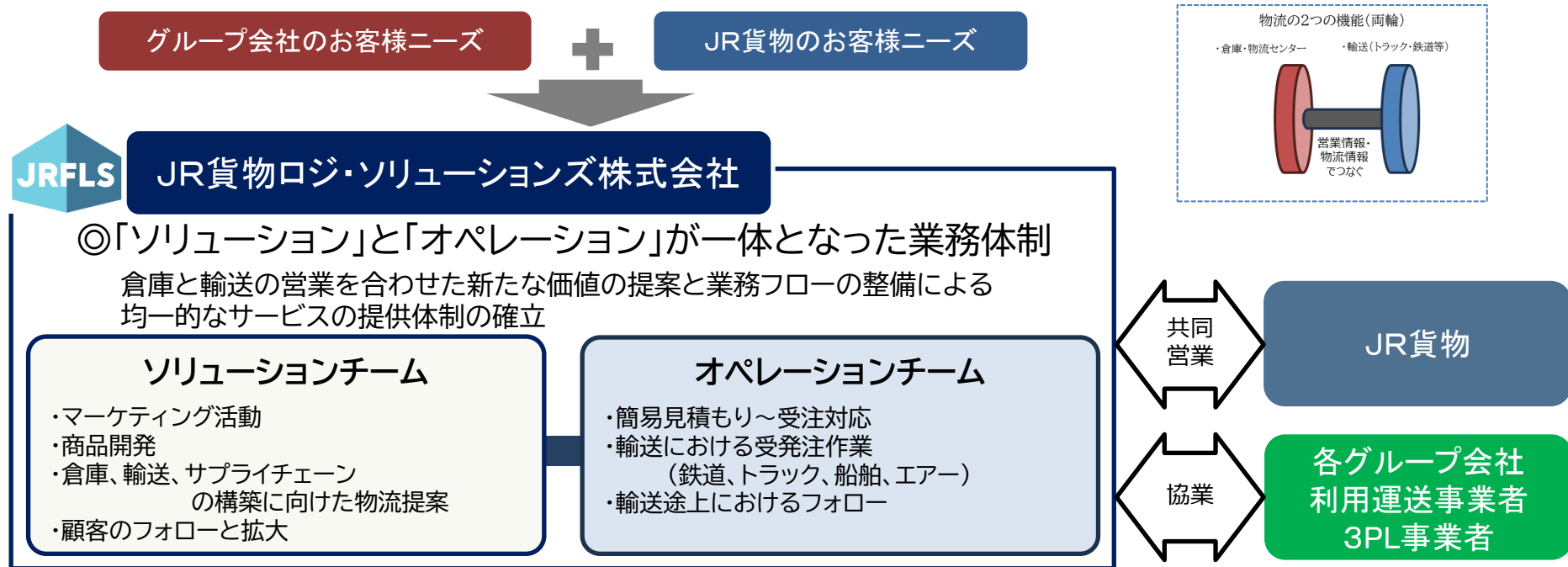
◆「扇望丸」

3-2. 2025年度 主な取組み

◎ グループ一体での鉄道×物流の総合力による輸送量の拡大

(1) グループ会社と協働する新たな総合物流体制の構築と稼働

- JR貨物ロジ・ソリューションズ(2025年4月発足)を基軸として、倉庫機能を結節点に貨物鉄道輸送を中心とした輸送モードを組み合わせながら、お客様のニーズに合わせた総合物流サービスを提供。



○貨物駅の物流結節点機能強化

- ・レールゲート及び積替ステーションの展開 KGI/KPI
- ・パレットデポ“駅パレ”の併設推進 KGI/KPI

3-2. 2025年度 主な取組み

◎ グループ一体での鉄道×物流の総合力による輸送量の拡大

(2) 既存輸送力を徹底的に活用した潜在的輸送ニーズの取り込み

- データ分析を踏まえた戦略的営業活動の展開
 - ・利用状況を踏まえた機動的な輸送力配置
 - ・輸送枠の「空き状況見える化」の深度化
- 31ftコンテナ輸送の拡大 KGI/KPI
 - ・国の支援制度活用による増備
 - ・求貨求車システムと連携したラウンドマッチングのパッケージサービス実施
 - ・コンテナホームを拡張した西浜松駅及び静岡貨物駅の積極誘致
 - ・潜在的需要が見込まれる北関東地区の利用誘致
- 定温コンテナ輸送の拡大 KGI/KPI
 - ・医薬品輸送の拡大と未利用事業者へのアプローチ
 - ・アイスバッテリーコンテナ等の新機能コンテナの利用拡大
- 中距離帯輸送の拡充 KGI/KPI
 - ・「物流の2024年問題」を背景とした輸送力の拡大

(3) 新時代の貨物鉄道輸送に相応しい制度見直し

- トラック代行拠点の運営方式や料金等の見直し
- 輸送付帯サービス内容の見直し



◆鉄道輸送用31ftコンテナ(汎用)



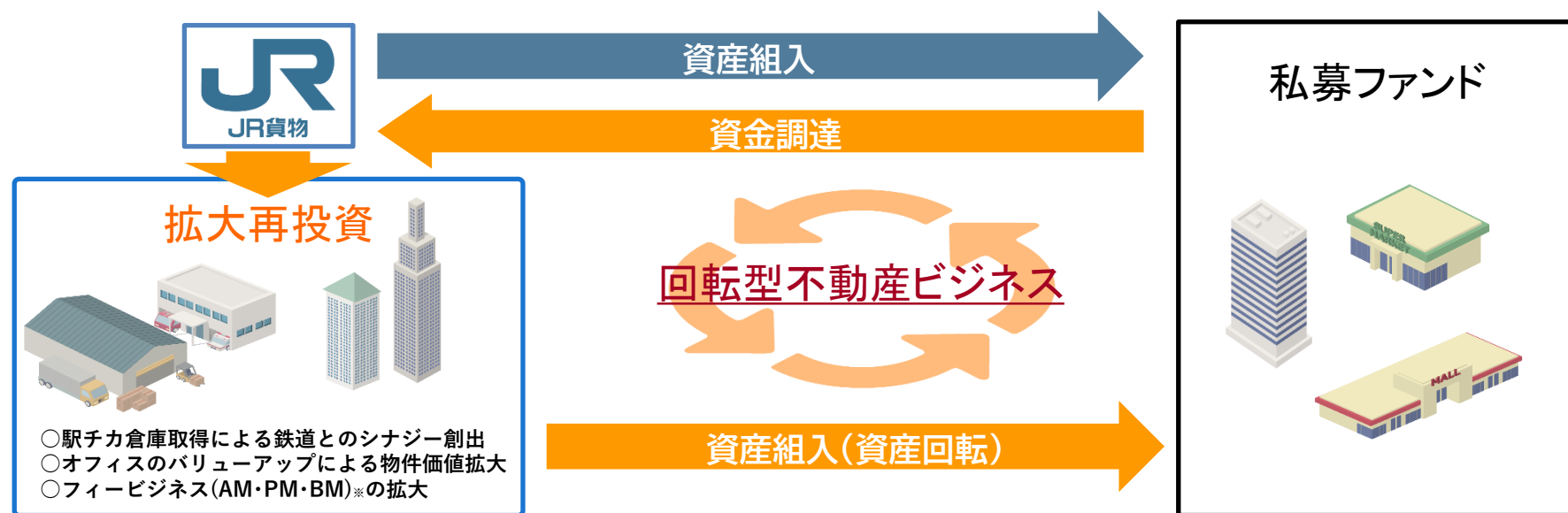
◆アイスバッテリーコンテナ

3-2. 2025年度 主な取組み

◎ 不動産事業の拡大と新規事業の展開

(1) 回転型不動産ビジネスへの参入

- 保有する賃貸用不動産(土地・建物)の計画的売却によって得た資金を原資として、総合物流事業とのシナジー効果が得られる物流施設等の新たな賃貸用不動産の開発や取得に投資し、資産価値向上を図った上で売却し再投資するというサイクルにより、物件の収益性を高め不動産事業の収益拡大を図る。
あわせて、売却する不動産のアセットマネジメント・プロパティマネジメント・ビルディングマネジメントをJR貨物グループが担うことでフィービジネスも創出していく。



※AM: アセットマネジメント 資産運用会社、ファンドの物件取得・運用・売却・資金調達方針を決める業務

PM: プロパティマネジメント 物件ごとのリーシング、テナント管理、契約管理、入出金管理、予算策定、工事管理等、主にソフト面の管理業務

BM: ビルディングマネジメント 設備管理・警備防災、清掃等の主に物件のハード面の維持管理に関する業務

3-2. 2025年度 主な取組み

◎ 不動産事業の拡大と新規事業の展開

(2) テーマと継続性のある新規開発事業の推進

○物流施設の取組み

- ・物件取得の検討：首都圏、名古屋、大阪、福岡
- ・保有用地の開発：仙台、足立、横浜羽沢

○マンション事業による「フレシア」ブランドの展開

- ・賃貸マンション：立川、笹塚、成城学園前、天王寺北社宅跡地
- ・分譲マンション：広島牛田社宅跡地、西橋本社宅跡地

(3) 既存物件の有効活用

- 社宅跡地の活用(苗穂、敦賀舞崎、広島牛田等)
- 東高島における土地区画整備事業に伴う開発推進

◇ベンチャーやスタートアップと連携した新規事業の検討

◎ 経営基盤の強化

(1) コーポレート・ガバナンスの強化

- 業務監査やグループ会社監査の実施
- グループガバナンス向上のための監査役連絡会の開催
- コンプライアンスに関する体系的・計画的な教育の実施



◆フレシア天王寺 完成イメージ



◆広島牛田社宅跡地の開発イメージ



◆グループ監査役連絡会

3-2. 2025年度 主な取組み

◎ 経営基盤の強化

(2) 人的投資と働きがい創出

○人的投資の推進

- ・人材育成、人権尊重と企業成長を両立するDE&Iの推進

○社員のモチベーション向上施策の推進

- ・人事制度の見直しと追加策定
- ・健康経営推進によるパフォーマンス・生産性向上



◆健康増進に向けたイベント

(3) グループ戦略の強化

- 輸送障害時の対応や総合物流体制の構築、不動産管理の取組みを中心とした連携

◎ 貨物鉄道輸送の更なる役割発揮に向けた取組み

(1) 脱炭素社会の実現に向けた取組み

- 鉄道輸送によるCO2排出量算定手法の精緻化 KGI/KPI
- お客様のScope3削減を明示するインセンティブ導入 KGI/KPI

(2) 実効性を伴った新技術導入や次世代I初ギ-の利活用・輸送の取組み

- コンテナハンドリングマネジメントシステム(CHMS)の開発
- スワップボディコンテナ輸送の実証実験実施
- 企業連携による水素利活用・輸送に向けた検討の深度化



◆トラック及び鉄道の双方で輸送可能なスワップボディコンテナ

(3) 海外における貨物鉄道事業への参画

- タイにおける「鉄道プラットフォーマー」事業の実施

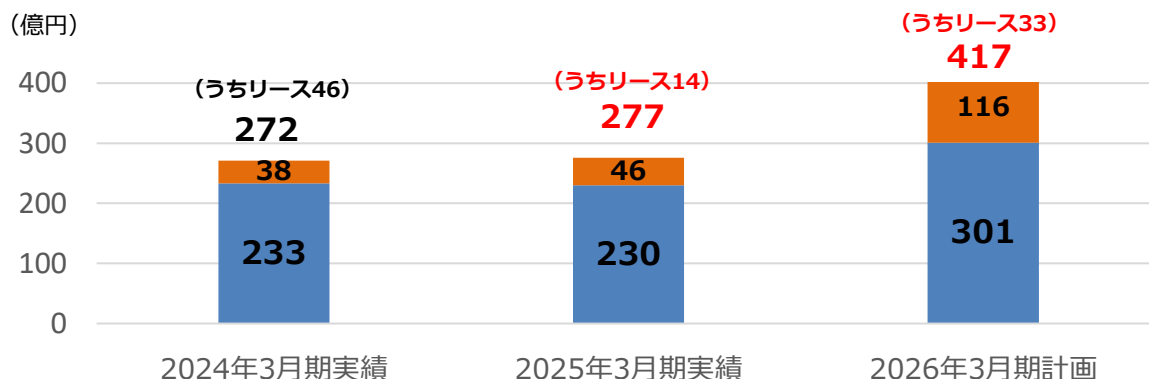
3 - 3. 設備投資の状況

2026年3月期は、安全基盤の強化・安定輸送の追求に向け、脱線事故対策等のハード対策を完遂し、既存アセットを最大限活用したうえで、必要な鉄道施設・機器の整備・更新を実施する。鉄道部門の収支改善及びカーボンニュートラルに向けた政策のため、大型コンテナ取扱量の拡大に向けた投資を行い、収入拡大を図るとともに、自然災害対応力の強化及び鉄道ネットワークの強靱化を目指す。

また、不動産事業の更なる拡大に向けた賃貸物件購入・回転型不動産ビジネスの参入による関連事業収益拡大・将来の収益化に繋げる。

◎ 連結の設備投資額（リース含む）

■ 鉄道ロジスティクス事業 ■ 不動産事業



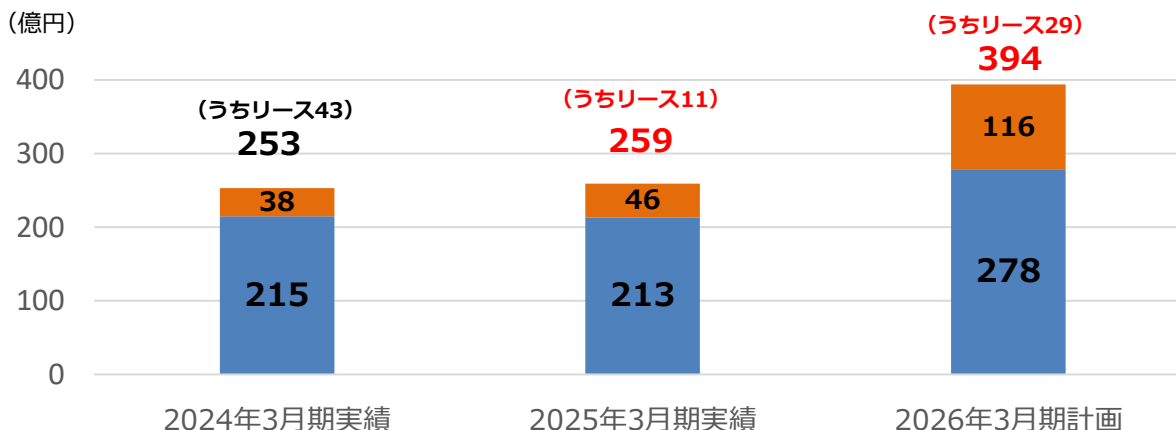
EF210形式機関車の新製



トラックスケール（脱線対策）

◎ 単体の設備投資額（リース含む）

■ 鉄道事業 ■ 関連事業



賃貸物件購入

〔当社グループの事業系統図〕

お 客 様

鉄道を基軸とした総物流サービス

(貨物鉄道輸送)

(保管、荷捌、流通加工、配送)

不動産の賃貸・分譲、ビル・物流施設の管理、
農産物の生産・販売 他

鉄道利用運送事業者

鉄道ロジスティクス事業

【利用運送】

- 日本フレートライナー(株)
- 全国通運(株)

【倉庫・物資別】

- 日本運輸倉庫(株)
- 名光急送(株)
- 東京輸送(株)
- 日本オイルターミナル(株)
- 関西化成品輸送(株)
- セメントターミナル(株)

不動産事業

【関連・その他】

- (株)ジェイアール貨物・不動産開発

建設・
コンサルティング
ビル管理

その他

【関連・その他】

- 山村JR貨物きら
ベジステーション(株)

業務提携・
鉄道輸送利用

日本貨物鉄道株式会社

連絡運輸

【臨海鉄道】

- 八戸臨海鉄道(株)
- 仙台臨海鉄道(株)
- 福島臨海鉄道(株)
- 鹿島臨海鉄道(株)
- 京葉臨海鉄道(株)
- 神奈川臨海鉄道(株)
- 名古屋臨海鉄道(株)
- 衣浦臨海鉄道(株)
- 水島臨海鉄道(株)

駅構内業務・荷役業務・
検修附带作業

【ロジスティクス】

- (株)ジェイアール貨物・北海道物流
- (株)ジェイアール貨物・東北ロジスティクス
- (株)ジェイアール貨物・北関東ロジスティクス
- (株)ジェイアール貨物・南関東ロジスティクス
- (株)ジェイアール貨物・新潟ロジスティクス
- (株)ジェイアール貨物・信州ロジスティクス
- (株)ジェイアール貨物・東海ロジスティクス
- (株)ジェイアール貨物・北陸ロジスティクス
- (株)ジェイアール貨物・西日本ロジスティクス
- (株)ジェイアール貨物・中国ロジスティクス
- (株)ジェイアール貨物・九州ロジスティクス

駅施設管理

【関連・その他】

- 北九州貨物鉄道施設保有(株)

リース
資材調達

【関連・その他】

- ジェイアールID商事(株)

●印：連結子会社、□：持分法適用会社

リース、グループファイナンス、資材調達